

2U

第8回 アカデミックフォーラム「To Solve Social Problem Through Art and Cultural Activities」

The 8th Academic Forum in Yogyakarta

+3U

アカデミックフォーラムは、都市研究プラザジョクジャカルタ・サブセンターにより、2003年からインドネシア国立芸術大学(ISI)及び、国立総合大学であるガジヤマダ大学(UGM)との合同で、毎年継続的に開催されている国際フォーラムである。2010年3月17日(水)、ガジヤマダ大学にて、「芸術、文化活動を通しての社会問題解決」と題する第8回の国際フォーラムが開催された。ここでは、3つのセッションに分かれ、インドネシアと日本から計10人の発表と質疑応答・議論が行われた。

セッション1では、主に、カンブン(Kampung)をテーマとした4つの発表があった。建築学的観点からより良いカンブン作りや、カンブン内での格差などの問題解決に対する提案(Ilya Maharika氏:インドネシア・イスラム大学)、また、村をモデルとした持続可能な都市コミュニティづくりのためのスペースの使い方の提案(M. Sani Roychansyah氏:UGM)、インドネシアの都市部での急速な発展に対して、もっとスマートな発展の仕方としてのスローライフの提唱(Djaka Marwasta氏:UGM)、河川環境の問題に関して市民団体のネットワークがどのように非政治的に地域住民とかわかってきたかの発表(高崎章裕:

G-COE特別研究員)等、ローカルコミュニティに深く関係するトピックについて議論された。

セッション2では、貧しい人々の社会包摂や社会の統合(川野英二氏:京都大学)、文化や芸術、創造性を通じた仕事の創出(Wiwik Sri Wulandari氏:ISI)、コミュニティの結束(Wisma Nugraha Christianto R.氏:UGM)について、具体的な例とともに話し合われた。

セッション3では、メディアによるイメージ作りを通じた消費の理解(Kurniawan Saputro氏:ISI)、芸術活動による障害者のエンパワーメント(Setiadi氏:UGM)、宗教などを通じたホームレス支援(Geerhardt Kornatowski:G-COE特別研究員)、そしてそれぞれの問題点などについて発表が行われた。

参加者は主に招待された人文・社会科学、建築・都市計画等を専門とする研究者約50人で、熱心に発表を聞き、質問する人も多く、議論の時間が足りないと思えるほどであった。文化や芸術を通してのコミュニティや都市の再創造、問題解決、社会包摂に関して、充実した発表、議論の行われたフォーラムであった。

■ 岡戸香里(G-COE特別研究員)



セッションごとの発表者と司会が前に並んで行われた発表風景

The Yogyakarta sub-center presented the 8th Annual International Academic Forum at Gadjara Mada University on March 17th (Wed). The theme for this year's forum was "To Solve Social Problem Through Art and Cultural Activities," and there were presentations by a total of 10 researchers from Indonesia and Japan. About 50 specialized researchers participated, and many questions were asked in this forum that consisted of substantial presentations and discussions related to community and urban re-creation, problem solving, and social inclusion through culture and the arts.